

“気兼ねないお出かけ” 高校生と高齢者が移動しやすくなる「（仮）新しい交通」の導入の概要 （吉田町地域公共交通協議会）

資料5

取組の概要

（現状の地域課題と事業目的）

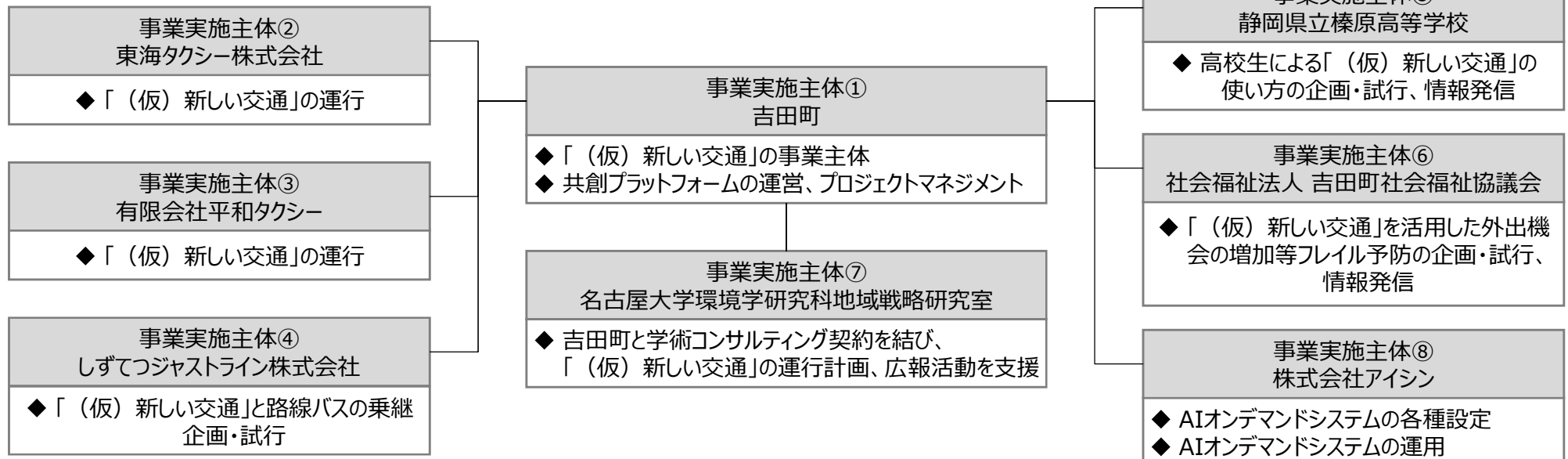
- 地域課題
 - 公共交通は、路線バスとタクシーで担われているが、今後は、バス運転手の確保の難しさ、コロナ禍の影響などにより路線の減便や縮小が懸念される。
 - 既存の路線バスだけでは町内を十分にカバーできておらず、住民の移動手段は自家用車の割合が高い。高校生等子どもや免許返納高齢者の移動手段が少なく、高齢化の進展による交通事故リスク、交通弱者の増加を危惧。
 - 「まちづくりに関する住民意識調査」（2022年）の結果、住みにくい理由第1位は、いずれの年代でも「公共交通機関の便が悪い」であり、非常に満足度が低い。
- 事業目的
 - まちづくりと連携した面的な交通ネットワークを構築し、町内どこでも利用できる公共交通サービスを実現する。自家用車に頼らず移動環境が享受できる町、すなわち「だれもが気がねなく『お出かけ』できるまち」をめざす。

（事業の概要）

- オンデマンド型乗合交通として「町内を走る新しい交通（以下、（仮）新しい交通）」を導入し、町内の移動をカバーする。
- バス路線に接続し、現行のバス路線の利便性の向上を図る。

事業の全体像・共創の仕組み

共創プラットフォーム：吉田町地域公共交通協議会



“気兼ねないお出かけ” 高校生と高齢者が移動しやすくなる「（仮）新しい交通」の導入の概要 （吉田町地域公共交通協議会）

取組の詳細

（実証事業の内容）

- 既存の路線バスだけでは対応できない町内の移動、バス停から遠い地点とバス停との移動を確保するため、オンデマンド型乗合タクシーを導入する。
- 運行区域は、吉田町内：全域、吉田町外：榛原総合病院。
- 朝、日中、夕方に分け、時間帯によって変わるしくみとし、それぞれの需要に応じた運行を行う。
- 乗降場所は、各地区の住民及び関係団体との協議を踏まえ配置する。
地区ごとに歩いて集まれる場所（ごみステーションなど）や、病院・医院、公共施設、スーパー等商業施設、バス停留所など、住民・来訪者がよく使う場所を選定。町外の乗降場所として、隣接する牧之原市の榛原総合病院を指定する。（吉田町内には総合病院が無いため）
- 高校生等若年層にも使いやすいよう、オンライン予約や電子決済を導入する。

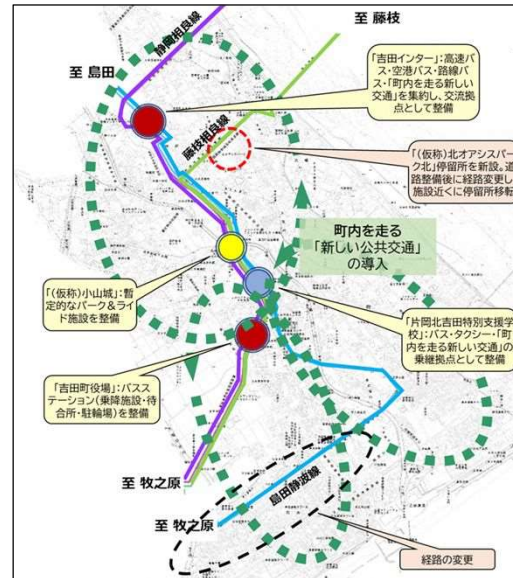
（地域関係者との連携・協働）

- タクシー事業者により運行される「（仮）新しい交通」が、バス路線に接続し、現行のバス路線の利便性の向上を図ることにより、既存バス路線を吉田町の公共交通の軸として維持する。
- 高校の授業で「（仮）新しい交通」の使い方のプランをつくり、共にアクションを起こすことにより、高校生が地域交通に触れ考える機会の創出となる。また、高校生の視点を取り入れたサービスの向上を図ることが可能となる。
- 社会福祉協議会（以下、社協）が実施する高齢者の外出促進の取り組み「通いの場」は、高齢者の移動手段不足により限定的な広がりとなっている。社協との連携により、「通いの場」やフレイル予防教室等への「新しい交通」の活用により参加者の増加が期待される。

（地域課題解決への有効性）

- 「（仮）新しい交通」とバス路線の接続を図ることにより、現行のバス路線の利便性が向上するため、バス利用者の増加が期待でき、路線の維持につながる。
- 高校生が自主的に「（仮）新しい交通」に関わることにより、高校生等若年層が利用しやすいしくみの構築が可能になり、公共交通の利用促進につながる。
- 社協と連携した具体的な取組により、現在移動に不安を抱えている人ばかりでなく、5年後の移動に不安を抱える人にも新しい移動手段を提供し、免許返納後も、外出を促しフレイル予防につなげる。

■ 公共交通網のイメージ



■ 実証実験の内容① 運行時間としくみ

運行時間	6時	7時	8時	9時	10時	11時	12時	13時	14時	15時	16時	17時	18時	19時	20時
10月～12月															
1月～3月															

【朝】6:00～8:00 “半”定時定路線

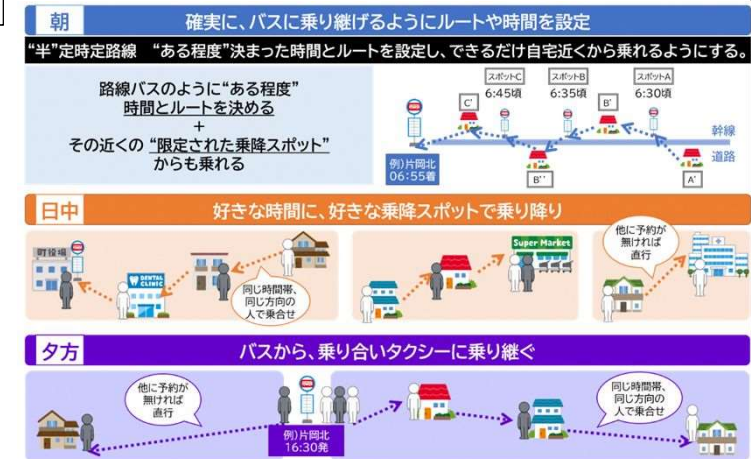
【日中】8:00～16:30 フリー路線

【夕】16:30～20:00 毎時30分、0分拠点発

最終乗車時間

実証実験は、前期3ヵ月、後期3ヵ月の計6ヵ月実施。段階的に運行時間や内容を拡充する。

■ 実証実験の内容② 時間帯によって変わるしくみ



“気兼ねないお出かけ” 高校生と高齢者が移動しやすくなる「(仮) 新しい交通」の導入の概要 (吉田町地域公共交通協議会)

取組の詳細

(事業のスケジュール)

【凡例】 実線 → : 補助対象 破線 → : 補助対象外

	2023年				2024年						
	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月以降
全体	運行計画の策定	7/3公共交通協議会会議	デマンドシステム調整	実証実験のテスト運用 広報、説明会	実証実験<前半>			実証実験<後半>			実証実験は自己負担で継続
		道路運送法21条申請提出							実証実験のまとめ		令和6年度も実証実験は継続実施。 内容は、令和5年度の結果を踏まえ見直す。
吉田町 名古屋大学 システム事業者	運行計画の策定	乗降場所の選定	デマンドシステム調整	住民説明会等 広報	利用データ等の収集・分析、住民懇談会、利用者アンケート調査等の実施			実証実験のまとめ			
タクシー 事業者	運行内容の検討			デマンドシステム 導入、運行テスト	「(仮) 新しい交通」運行			吉田町の自己 負担で継続			
バス事業者	運行内容の検討、乗り継ぎプランの企画				乗り継ぎプランの試行						
榛原高校	授業への取込み み方を検討	テーマ別講話にて 生徒に展開		生徒による選 考テーマの決定	生徒によるアクションプラン作成・実施、情報発信 ※「(仮) 新しい交通」と連携して実施			生徒による まとめ作業	生徒による 発表		
社協	高齢者の「通いの場」への誘引、外出促進、フレイル 予防企画等の検討			「(仮) 新しい交通」 説明会、情報発信	「通いの場」への移動、外出促進策の実施、情報発信			吉田町の自己 負担で継続			

■ 事業実施終了後について

「(仮) 新しい交通」は、吉田町地域公共交通計画（2022年4月策定）に位置づけられた取り組み。
当計画に基づき、2024年度も1年間にわたり、実証実験を継続予定。内容は、今年度の結果を踏まえ見直す。